

学校だより

No. 10 青梅市立第三小学校
校長 平崎一美

令和2年11月4日

青梅市大門 2-317 電話 0428-31-7266 学校HP <https://www.city.ome.tokyo.jp/school/daisan/-e/>

「三小スポーツフェスティバルから見えたもの」

～ 新しい学校生活での行事の在り方～

教務主幹 峯浦 さち

「今年はコロナだから運動会もできないね。」一休校が明けても、様々な制約がある中で
の学校生活に不安を感じる声が聞こえてきました。そんな時、私たち教職員が考えたのは、
「子供達にとって必要な教育活動とは何だろう。」「運動会を通して、身に付けさせる力は
何だろう。」ということです。例年通りの形でなくても、原点に立ち返り、教育活動を見直
しました。

運動会は、毎年恒例で子供達にとっても、地域や保護者の方にとっても楽しみにしてい
る大きな行事です。しかし、運動会を行うのは「毎年行っているから」「保護者や地域の方
が楽しみにしてくれているから」という理由だけではなく、いずれの行事も子供達にとっ
て意義のある教育活動でなければならないことに改めて気付きました。そして、ゼロから
新しい行事をつくることにしました。例年と異なる取組を始めることは、不安があり、勇
気が必要でした。限られた条件の中で、「行事を通して子供達に身に付けさせたい力、経験
させたいこと」について何度も話を重ねた結果、日常の体育的活動を子供達同士で認め合
い、励ます場とし、楽しく運動に向き合う行事にしたいと考えました。

しかしながら、例年とは異なる取組です。子供達の反応には少々の不安がありました。
いざ本番に向けて練習を始めると、休み時間に積極的に長縄の練習をする姿、練習を振り
返り次に生かそうとする姿、学級会で各クラスの応援を考える姿、それを異学年同士で教
え合う姿… 様々に頑張る子供達の姿が見られました。そして、本番ではクラスで団結し、
お互いに応援し合う姿、励まし合う姿、勝って喜んだり、負けて悔しがったりする姿、た
とえ短い時間でも楽しんで運動する姿… それぞれに輝く子供たちの姿が見られました。

学習指導要領 特別活動編には、

「健康安全・体育的行事のねらいは、(中略)体育的な集団活動を通して、心身ともに健全
な生活の実践に必要な習慣や態度を育成する。さらに、児童が運動に親しみ、楽しさを
味わえるようにするとともに体力の向上を図る。」と、あります。

「新しい教育活動」を求められることは、今後も出てくることが予想されます。しかし、
その度に例年の形にとらわれ不安になるのではなく、子供達が生きる未来を想像し、目の
前の子供達にとって必要なことを考え、向き合っていけばよいということが、「三小スポ
ーツフェスティバル」を通して、見えてきました。これからも、限られた条件や限られた時
間の中で、これからを生きる子供達にとって必要な教育活動を展開していきたいと思いま
す。

最後に、「三小スポーツフェスティバル」の開催にあたり、PTA本部役員の方々をはじめ、
保護者の皆様のご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

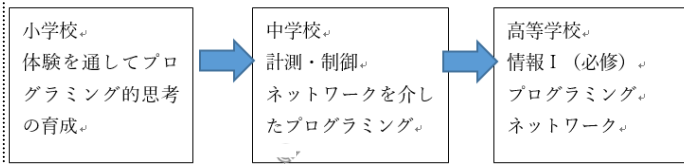
プログラミング学習の取り組み

「プログラミング的思考から育む」

プログラミング思考とは、「実行したい目的に対してどのような動きの組み合わせをすればよいかを順序立てて考えられる力（参考：小学校プログラミング教育の手引き第二版 文部科学省）」を指します。

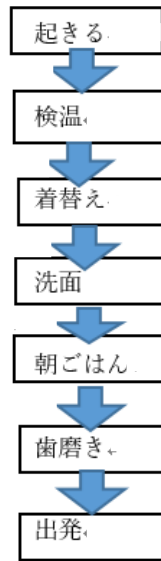
低学年では、アンプラグド（コンピュータを使わない）、フローチャートの理解を各教科の学習の中で意識するところから始まり、中学年ではビジュアルプログラミングとして「スクラッチ」を体験します。高学年では工学教材としてマイクロビットを使用したプログラミング学習を3学期に取り入れていきます。

系統立てたカリキュラム



例【プログラミングの第一歩】

朝起きて家を出るまでをフローチャートで表す。



「フローチャート」という言葉だけで難しく感じますが、実際に作ってみると、プログラミングは意外と身近なものであることがわかります。また、作る人によってやることや手順が異なる。それもこの作業のおもしろいところです。

ICT機器の効果的な活用

各教科の授業や日常生活の中で、ICT機器を活用して視覚的に理解を促したり、全体に伝わりやすくしたりしています。外国語の授業では、スクリーンに児童用教科書と同じ場面を映し出し、音声も同時に流すことができます。また、解像度の高い大型テレビを使用して、低学年の教室では、授業時間以外にも時計のデジタル表示のために使用するなど、学校生活の様々な場面で活用しています。



児童用タブレットは数年前に整備されたものが40台あります。それぞれに配布された児童用IDを使用してログインし、使用します。総合的な学習の中で、調べ学習に使用したり、3年生以上の学年では、3・4年生でスクラッチ、5・6年生でマイクロビット（3学期）の体験にも使用したりします。機器を効果的に活用するだけでなく、都度マルチメディアリテラシーについても触れるようにしています。



5年生の様子

「仲間のために」

三小初のスポーツフェスティバルを通して、目標の立て方や「だれかのために」動く力を高めました。大縄跳びの回数を増やすためには、「回数を増やしたいから協力する」のではなく、「互いを思いやって協力するからこそ回数が増えた」と、人を思う気持ちや、目標達成のための工夫や努力を、体験を通して学ぶよい機会となりました。高学年として、自他が認め合い高め合う雰囲気をつくり、校内に発信していくことを大切にしていきたいです。

6年生の様子

「最高学年として！」

先日行われた「三小スポーツフェスティバル」では、最高学年として各種目へ全力で取り組むのはもちろんのこと、応援や大縄跳びのお手伝いで、一年生へのお世話もがんばりました！

また二学期より委員会やクラブ活動も始動し、よりよい学校にしようと、立場を考えて行動することができています。卒業まであと五か月。「今、この瞬間」を大切に、学校の先頭に立って全校をリードしてほしいです。

部活動紹介～金管バンド部～

創部より13年の伝統ある課外活動です。今年初めて3年生が入部し、3～6年生58名が所属しています。コロナ感染予防のため、制約があり、例年のように大勢の方や校内の友達に演奏を聴いてもらえる機会がなくなってしまいましたが、それでも、子供たちは、「ひとりじゃないよ!」「継続は力なり」「当たり前前を当たり前」を合言葉に、録音審査にチャレンジしたり、や保護者向けのオンライン演奏会を開いたりして一生懸命に活動しています。

土曜日練習ではいつも以上に時間をかけて集中して練習したり、部員同士の親睦を深めるレクリエーション活動をしたりして、音楽を通して人として成長することを大切に活動しています。

演奏をお聴き頂ける機会がありましたら、応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

部活動紹介～ストリートダンス部～

ストリートダンス部は、4～6年生35名が所属しています。部内でチームを3つ作り、それぞれオンライン発表会やオンラインコンテストに出場しています

10月18日に行われた朝日新聞社主催オンラインダンスライブには、3チームとも出演しました。また、5、6年生のメンバーで構成される「Challenge7（チャレンジセブン）」は「全国ダンスパフォーマンスコンテスト2020」の予選を通過し、12月に開催される全国大会への出場を決めています。11月15日には、Challenge7とArt of color（アートオブカラー）が「全国ジャンル別コンテスト（オンライン）」に挑みます。応援よろしくお願いいたします。

11月の主な行事予定

パラスポーツスクールの実施について

日時：11月17日（火）3校時～5校時入れ替え制 場所：体育館
対象：5年生140名・6年生120名・かすみ・13名 計273名

昨年度好評だったアスリート講演「成田童夢さん」に引き続き、今年はコロナ禍の中、対象を高学年に絞ってブラインドサッカーの現役パラアスリート「原口淳（はらぐち じゅん）」氏によるブラインドサッカー体験を実施します。皆さんはブラインドサッカーのルールを知っていますか？ゴールキーパー以外はアイマスクを装着し、音の出るボールを使います。パラリンピックのいろいろな競技を知っていききたいですね。

ゆうやけランドが始まります

青梅市の放課後子ども教室推進事業「ゆうやけランド」が11月4日から始まります。ゆうやけランドは地域ボランティア等の見守る中、楽しく遊ぶことのできる場所です。たくさんのお友達と触れ合う機会と居場所を放課後の学校に開設しています。

参加を希望される方は先日配布したお知らせをお読みになり、申込書を記入の上参加してください。なお、学童クラブの所属している児童は登録できませんのでご承知おきください。

お知らせ

◆体育館の天井の修繕が無事に終わりました。青梅市教育委員会総務課施設係の点検も終了し、使用可能となりました。

◆前回の学校便りで「PTAによるあいさつ運動は、今年度いっぱい中止となっています。」とお知らせしていましたが、正しくは、「PTAによるあいさつ運動は、2学期いっぱい中止となっています。」です。お詫びしてお知らせいたします。